

園だより

2020年度2月号
2021年2月1日発行

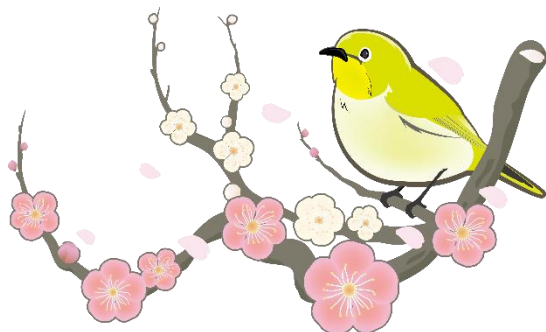
受ける喜び 与える喜び

2度目の緊急事態宣言が始まり、身近な所でも感染者やPCR検査を受けた方の報告が届き、まだまだ気を緩められない年明けでした。それでも、例年のインフルエンザや胃腸炎などの感染症はとても少なく、子ども達の出席率は良好です。元気に園庭でマラソン縄跳びや冬の遊びを楽しむ姿が毎日見られます。

マスクでの生活が長期化していることで、保育士の口元や表情がわからず、愛着障害や発達に悪影響がないのかと心配する声があります。発達の専門家（榎原洋一氏：お茶の水女子大 発達神経学 医学博士）からの見解では、子どもは目の表情でも十分に伝わるので、マスク保育であっても温かなまなざしや声掛け、スキンシップがあれば、健全な成長に支障はないとのこと。黎明の子ども達は、コロナ禍中でも今までと変わらず、よく笑いよく泣きよく怒り、表情豊かで子どもらしくのびのびと成長していることを実感しています。

さて、先日クリスマス献金を送ったユニセフやペシャワール会からお礼と感謝の手紙が届きました。4、5歳クラスの礼拝で、そのポスターと手紙のことを話すと、子ども達は目を輝かせて聞いていました。幼い子どもでも、お手伝いや誰かの役に立つことが大好きです。人に何かをしてあげたらとても喜ばれて、自分も嬉しくなるのです。自分が役に立つという思いは、自尊感情や自己肯定感につながり、生きる喜びにもつながります。

子どもは大人から保護され一方的に与えられるばかりにみえます。けれどもコロナ禍で出生率は大幅に減少している現在「こんな時代に、生まれてきてくれて本当にありがとう」と存在そのものが喜びであり、私たちの生きがいです。小さくても、周りの誰かに勇気と希望を与えられる存在なのですから。



「受けるよりも与える方が幸いである。」
(聖書 使徒言行録 20 章 35 節)

園長 三幣典子